



ワークショップ開催報告

日本精神保健看護学会 第34回学術集会

2024年6月1日-2日に開催された日本精神保健看護学会第34回学術集会（成田市）において、『精神疾患をもつ妊産婦に看護職はどう関わればよいのかーセルフケアモデルに基づいて支援を考えてみようー』をテーマにワークショップを催しました。企画者は、日本周産期メンタルヘルス学会の会員でもある精神看護学教員と精神看護専門看護師10名です。当日は、企画者に加えて、総合病院、精神科病院、市町、教育機関など様々な場で活躍する、若手からベテランまでの看護師、助産師、保健師30名の方が参加されました。

ワークショップでは、生活・育児のセルフケアの視点から、精神疾患をもつ妊産婦の生活・育児上の困難やケア・ニーズ、支援方法、多職種・多機関との連携について共に学びながら、活発なディスカッションが行われました。開催後のアンケートからは高い満足度と共に、「他職種から情報を得ることができた」「多職種の視点を共有でき、大変有意義に学べた」「母親だけではなく児のセルフケアも含めて考えられた」「本人の気持ちをしっかり聴くことが大事だと分かった」「専門家としての視点は持ちつつ、対象者が必要なサービスを自身で選べるような情報提供や支援が大事だと感じた」などの貴重な意見を伺うこともできました。

精神看護領域での周産期メンタルヘルスへの関心をさらに高めるとともに、多職種との連携を促進していけるよう、このような機会をこれからも継続して持ちたいと考えています。

（理事/玉木敦子/神戸女子大学看護学部教授）

話題提供 <診療ガイド公開>

こころの不調や病気と 妊娠・出産のガイド（一般の方向け）

日本精神神経学会と日本産科婦人科学会の両学会が協働で、2021年4月に「精神疾患を合併した、或いは合併の可能性のある妊産婦の診療ガイド：総論編、各論編」が発表されました。今回、これらの医療従事者版ガイドの内容に沿って作成した、「こころの不調や病気と妊娠・出産のガイド（一般の方向け）」が2024年6月に公開されました。

本ガイドは一般の方が抱く疑問に対してQ&A方式でわかりやすく説明しているのが特徴で、次の3章で構成されています。

- ・第1章：こころの不調や病気に悩む方に知っていただきたい妊娠・出産の知識と妊娠の準備に関するQ and A
- ・第2章：妊娠中・出産後にこころの不調を来した方、こころの病にかかった方とその周囲の方のためのQ and A
- ・第3章：すでにこころの病気の診断を受けていて、これから妊娠を考えているあるいは出産を控えている方及びその周囲の方のためのQ and A

妊娠前から精神疾患を持っている当事者・御家族や、妊娠中や出産後に初めてこころの不調を来した方まで、幅広く活用出来る内容です。ガイドの作成には、精神疾患のある当事者・御家族およびその支援者などからスコープ作成の段階からご意見をいただき、精神科と産科婦人科の専門家と、さまざまな形で討論を重ねて作り上げました。精神科医である清水杏里先生による温かなイラストと共に、一般の方にとって手に取りやすいガイドになっています。

ぜひ当事者・御家族の皆様や医療者、保健福祉従事者の皆様をはじめ、多くの方々にご利用頂ければ幸いです。
（理事/菊地紗耶/東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野准教授）

当日参加できなかった方、
まだ大丈夫です！！

第20回学術集会 オンデマンド配信

少子化時代の周産期メンタルヘルス
一人ひとりを大切に診る

11月1日（火）から11月30日（金）まで
参加登録は11月29日まで可能です！

<https://procomu.jp/pmh2024/>



日本精神神経学会サイト

https://www.jspn.or.jp/modules/forpublic/index.php?content_id=71

企画・発行：日本周産期メンタルヘルス学会 情報関連委員会

当学会では会員の皆様にとって有用な情報をニュースレターで取り上げていきます。
ご意見やご要望がありましたら事務局までお知らせください。